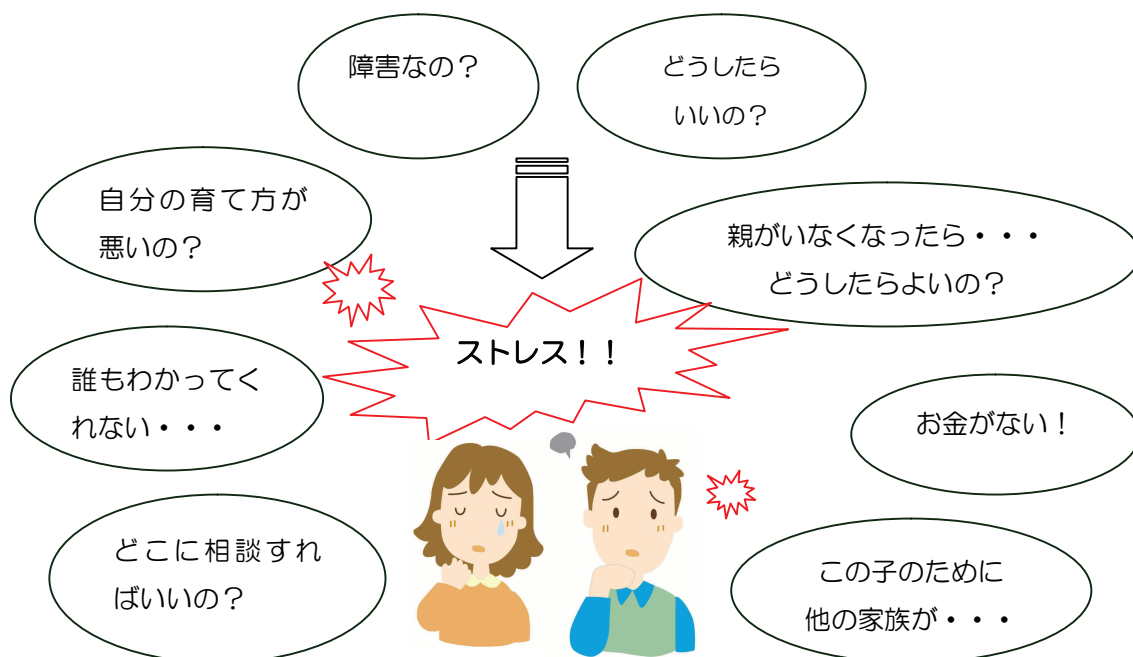


第四章 家族支援

1 家族の安定が、子供の安定

発達障害児の家族は、さまざまな困難にさらされます。

- 発達障害児の脳の特徴から生じるさまざまな問題行動が、家族のストレスを引き起こす。
→ 家族が精神的バランスを崩す恐れ！ 虐待につながる恐れも！
- 周囲の人たちの理解が得られず、孤立しがちになったり、自分を責めたりする。
→ 抑うつ状態！
- 子供の特徴と、似た特徴を家族自身が抱えていることがある。
- 保護者が独特の考えや哲学（意見）を持つことがある。
- 障害を受け入れられないことによる葛藤がある。
- 経済的な悩みを抱えている。
- 相談先がわからない。 など



障害のある子供の家族は、強い精神的ストレスを受けやすく、また、家族の精神状態が障害のある子供の心の発達に強い影響を与えます。家族の精神状態が安定していないと、子供への対応も安定しません。

家族が安心して生活し、理解と自信と見通しを持って、子育てや療育ができるように支援しましょう。

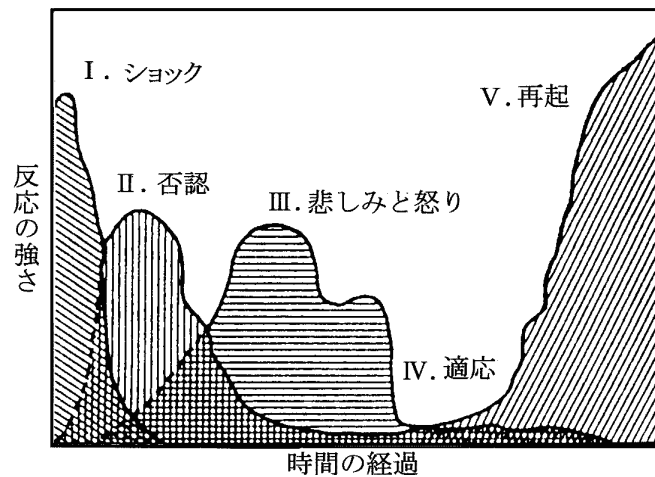
2 具体的な家族支援とは？

(1) 揺れ動く保護者の気持ちに共感しよう

障害告知による精神的ショックと、その後に陥る感情の変化は、段階的な過程で現れます（ドローターの図参照）。実際には、ショックや否認、悲しみなどを行ったり来たりしながら、少しずつ障害を受け入れていきます。

時間はかかりますが、保護者の肯定的感情や否定的感情に寄り添い、障害を認識・受容していく過程を、忍耐強く長期間支えていきましょう。

障害受容の段階的モデル（ドローターの図）



辛抱強く、保護者の気持ちに寄り添いましょう。

保護者が障害を受け入れられない時期は、「発達障害ではない」と言ってくれる医師のところを選び相談に行きがちです。

しかし、ある時期になると、「障害」ときちんと伝える医師のところへ相談に行くようになり、傷付きながらも少しずつ受け入れるようになっていきます。



(2) 子供への具体的な対応方法を一緒に考えよう

保護者が、子供の特徴を理解し、子供に合わせた対応ができるようになることで、保護者自身のストレスも減少していきます。保護者が安定して子供に接することで、子供も安定します。

子供への具体的な対応方法を、保護者と一緒に考えていきましょう。



豆コラム8 良いところからアプローチ！

発達に偏りがある場合、どうしても問題行動に目が行きがちになります。しかし、そこばかりを指摘されると、保護者は子供の問題行動ばかりが気になってしまい、育児を楽しめなくなるでしょう。子供の良いところを積極的に見つけて保護者に伝えていきましょう。

子供自身も良いところを褒められることで、自信がつきます。良いところからアプローチしていきましょう。

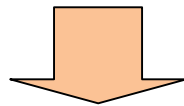


発達障害児支援は、
家族支援！！

3 家族に理解してもらうために

ありませんか？ こんなこと！

- ・園での様子を伝えると、「父親も小さい頃、同じでした。今は普通に生活しているので大丈夫です。」と、保護者が受け流してしまう。
- ・受診を勧めると、「うちの子が問題だと言うんですか！」と怒り出す。
- ・子供に必要と思われる対応を説明しても、「疲れているから」「面倒だから」とやらない。



このように対応してみましょう！

(1) 正論は、恐る恐る伝えよう

乱暴な行動が多くて、受診が必要と思われても、ストレートに受診を勧めると保護者は傷つくことがあります。「何でそんなことを言うの？」と、怒りの感情を持つこともあります。自分が責められているように感じてしまうからです。

「正論（正しいこと）」は時として人を傷つけます。

保護者の気持ちを考え、傷つけないように配慮しながら、少しずつ園での様子を伝えていきましょう。



家族が医療や診断を望まない場合は、無理に勧めないで、様子を伝えるだけにしましょう。話し合いができない家族を悪者にはしてはいけません。

園では、「暫定診断（P34参照）」で支援の方向性を考えましょう。

(2) 家族と一緒に考えよう

子供への対応を、支援者が保護者とともに考え、解決しようという姿勢が、保護者に勇気を与えます。保護者が孤立感を持たないように関わりましょう。

場合によっては、家族と一緒に主治医から説明を聞く機会を持つことも良いでしょう。子供の対応方法を一緒に考えることに役立ちます。



(3) 保護者の特徴を理解した対応をしよう

保護者自身も考えがまとまらなかったり、混乱しやすかったりする場合があります。保護者の理解に合わせた説明（具体的にやってみせる、場面を見せる、こうしたらこうなるということを実際に見てもらおうなど）の工夫を積み重ねていきましょう。

